

西部公民館だより

発行 西部公民館
 神ノ郷町吉町田12-1
 TEL:68-7233

謹 賀 新 年



新年のご挨拶

公民館館長 小林 至

新年あけましておめでとうございます。
 旧年中は公民館活動に、多くの皆様にご参加、ご協力いただきありがとうございました。
 新型コロナウイルス感染症も3年をこえ、共存の道を歩みつつあり、公民館の利用制限も緩和され、ほぼコロナ前にもどってはいますが依然として手指消毒、検温、マスク着用、換気は必要で油断は禁物、安心出来る状況には有りません。
 令和5年は、公民館だよりでお知らせしている通りNHK大河ドラマ『どうする家康』が放映され、神ノ郷は注目スポットとなります。この機を活かすよう職員や地域の皆様の協力を得て上ノ郷城跡・神ノ郷町・蒲郡の観光やPRに役立つ働きをしたいと思っております。毎年の事業と併せて実施してゆくことは、とても大変なことでありとても楽しみなことと感じ取っています。皆様の協力を得てやり遂げたいと職員一同決意しています。
 新しい年が皆様にとって幸多い年であることを願っております。



公民館運営審議会委員

委員長	神田 藤男	総代	委員	尾崎 裕幸	区議員
副委員長	尾崎 亘正	副総代	委員	尾崎 裕幸	区議員
委員	星野 佳子	西部小 校長	委員	永島 敏昭	区議員
委員	竹尾 公孝	西部小 教頭	委員	遠山 克昭	区議員
委員	山崎 優子	西部保 園長	委員	山本 宜男	区議員
委員	鋤柄 隆俊	消防団長	委員	加藤 由佳	区議員
委員	大森 千彰	区議員	委員	杉浦 昭夫	ひじり会 会長
委員	竹内 義昭	区議員	委員	竹内 大貴	P T A 会長
委員	上江洲 安明	区議員	委員	柴田 千尋	父母の会 会長
委員	大須賀 剛也	区議員	委員	足立 和子	子供会会 長
委員	竹尾 宗和	区議員	委員	品川 博子	婦人部長

※ 以上が公民館運営審議会委員8名と公民館運営審議会協力委員の皆さんです。

公民館管理運営委員

委員長	小林 至	公民 館長	スポーツ推進 委員	中山 綾子	-
顧問	神田 藤男	総代	地区役員	神田 敏明	山本
顧問	尾崎 亘正	副総代	地区役員	太田 篤	門前
主事	岩瀬 康	-	地区役員	河井 友孝	神東
書記	権田真由美	-	地区役員	岩瀬 米治	上向山
監事	杉浦 恵子	-	地区役員	稲垣 治郎	下向山
スポーツ推進 委員	柴田 裕章	-	地区役員	伊藤 由美子	宮成

以上の委員で本年も公民館運営に当たりますので皆様の御協力をお願いします。

1 2月の事業実績と1月事業計画

日程	行事名称	実績	備考
12/18(日)	公民館役員会(消火・通報・避難訓練・清掃・反省会)	済	
1/4(土)	新春百人一首大会		
1/15(水)	楽しい子供クッキング教室		
1/15(土)	子どもニュースポーツ大会		
1/25(土)	すこやか講座(10)料理教室		

大河ドラマ風景取り撮影がありました

11月2日(水)快晴の下、NHK大河ドラマ「どうする家康」で番組の最後に紹介される地元風景の撮影がNHK関係者の方により行われました。

その現場に少し立ち合いましたので皆さんに紹介します。

写真1 城山の上から蒲郡市内を撮影、その後伝説の家康の腰掛岩が有るといわれる名取山方向を撮影。



(写真1)

写真2 正行院に移動し「鶺鴒落城男女諸精霊之墓」の撮影風景です。“3つ有る墓石の内のどれがそうですか”等の質問がありました。

写真3 正行院の正面から撮影している風景。“一般にお寺は〇〇山□□寺と言われますが正行院の〇〇山は何と言いますか”等聞かれていました。

写真4 吉倉屋敷墓所内での鶺鴒殿長照墓碑を撮影。ここではお墓の歴史(形・大きさ)等が話題になっていました。



(写真2)



(写真3)



(写真4)

“わずか2～3分の放映時間ですが、どのように紹介されるか楽しみです。(小林)

公民館役員会開催

12月18日(日)16:00より公民館役員会を開催しました。役員会に先立ち、小学校より公民館に上ノ郷城復元模型を移設しました。その後は例年通り消火器訓練、消防署への通報訓練を実施しました。今年は3年振りに公民館内で役員懇親会も実施することができました。



令和5年NHK大河ドラマ『どうする家康』放映中の豆知識

今回は、蒲郡市立形原北小学校PTA編「いたずら地蔵」より転載

『忍者の城攻め』です。2回に渡って掲載します。

むかし、神ノ郷に城があった。神ノ郷が上ノ郷であったころの話だ。城のとのさまは、おじいさんのそのまたおじいさんのむかしのころ、海の向こうの熊野からやってきた鶺鴒殿長照という、たいへん強い大将であった。

世の中がさわがしくなり、あっちこっちでいさかぎが起こり始めた。

家はやかれ、たくさんの人がきずついたり死んだりした。

しかし、この地方だけは平和な暮らしがずっと続いていた。

ところが、この平和な暮らしも破られるときがきた。

となりの国の大名の今川と三河の国の松平が争いを起こし、

とうとうこの上ノ郷もいさかぎにまきこまれることになってしまった。

今川と親せきであった上ノ郷に、いよいよ松平の軍がせめてくるようになったのである。

せめる松平の軍は、天下きつての軍である。守る上ノ郷の鶺鴒殿軍もたいへん強かった。その上、上ノ郷の城は長い間かかって作られたがんじょうな城であった。はげしい戦いがくりひろげられた。松平の軍は、城に大砲をうちこみ、何万という矢を放った。

何度も何度もとつぎをくり返し、上ノ郷城におしよせた。だが城はびくともしない。城からは、大きな石や矢がせめてくる松平軍の頭の上にくっついてきて、たくさんの兵士たちをきずつけたのである。こんな

毎日が続いて、松平軍はたくさんのけが人があふれ、もうこれ以上城を攻めることができなくなってしまった。

松平軍の兵たちは、あざわらうように立ちはだかっている城を、いまいまそうにながめているだけであった。松平軍の大將は若い。

いらだちとあせりでじりじりしてきた。「いつまでこうしているのだ。いまに今川の軍が助けにやってきてしまうぞ。」

「留守にしている松平の城は大丈夫か。」松平の兵士たちが心配をしながら、言い合っているそんなある日、けらいのひとりが、見なれぬ衣を着た男を連れてやってきた。その衣の男は、はっきりした声で、「甲賀の忍者、多羅尾四郎兵衛と申す者でござる。それがしが、一族の者をひきつれて、あの城にしるびこみ、火をかけましようぞ。」

この作戦に喜んだ松平の大將は、うまくことが運んだら金五十枚のほうびをあたえ、そして火をかける時を明け方の一番どりが鳴く頃と決めた。

その夜、四郎兵衛は柿色の衣をまとった十人の一族の者をひきつれて、ひそかに城をとりまく兼京川を渡った。長い間のしゅぎょうで、音もなく川をわたり、かべをよじ登り、何事もなく城に潜り込むことに成功した。そして、ものかげにかくれると、じっと火をかける時を待った。(2月号に続く)



公民館からのお知らせ

新春司書企画「家康本読みくらべ」が開催されます

日程：2023年1月4日(水)～1月15日(日) 場所：図書館(ブラウジングルーム)

内容：1) 家康の登場する本を読み比べる楽しさを紹介。本は実際に会場で手に取って読むことができます。

2) 図書館で作成した家康の資料・年表掲示(家康の生涯の出来事とその時代の蒲郡の年表を合わせて表示)

協力：博物館、西部公民館